ティーチング・ステートメント

所属 看護学科
名前　山下 千絵子
作成日　2024.3.12

【責任】

　小児看護学領域において、子どもの身体的・精神的・社会的な成長発達、疾病や障がいを持つ子どもやその家族への看護について、講義や技術演習、臨地実習指導の教育活動を行っている。また、学生が安全に臨地実習に臨むために実習委員として学生のワクチン接種や感染予防などの指導や学生の学びの集大成である卒業研究・発表に向けての企画運営にも携わっている。

【理念】

　教育の理念として、健康問題が多様化・複雑化する社会の中、対象となる子どもや家族へ看護を行うために、子どもやその家族の生活サイクルや人生歴、価値観などの対象理解を深めるスキルを身につけ、対象の QOL 向上を目指した看護を実践できることが重要である。そのために、現場で活用できる生きた知識を持ち、その知識を対象の状況に合わせて判断できる力を養うことが必要である。そして、よりよい看護を目指し、多様化する対象に対応するために、常に新しい知識や自らの看護技術を高める姿勢を身につけてほしい。

【方針・方法】

　子どもやその家族に合わせた看護が展開できるように、看護基礎教育では正しい知識と原理原則に即した看護技術の修得が重要である。また、対象の QOL 向上を目指した看護を実践するために、修得した知識を対象の状況を照らし合わせて看護を考える力が必要となる。子どもやその家族に興味関心を向け、その人らしさを受け止め、寄り添える姿勢を身に着けられるよう働きかけたい。

１．正しい知識を定着させる

- 複数の教科書や参考書を用い、正しい知識や最新の医療、看護技術を確認し、授業資料を作成している。また、厚生労働省やこども家庭庁等の HP を活用し、子どもやその家族を取り巻く社会背景や、最新の法律や施策、統計データを確認し授業に取り入れている（授業計画）。
- 学生自身の生活経験と照らし合わせて、子どもの成長発達や健康問題を考えることができる発問の工夫を行っている（授業計画）。
- 実物を持参したり、写真や動画を活用し視覚的に学び取れるよう工夫している。
- 資料には、参考文献や教科書のページ数を示し、自ら復習できるような資料作りを行っている。
- 授業後、５分程度教室に残り直接質問ができるようにしている。また、授業アンケートに質問の項目を設け、授業内容に疑問が残らないようにしている。

２．対象の状況に合わせた判断力や看護実践力を養う

- 実際よく出会う事例を用いて、知識を活用し情報を整理したり、アセスメントする方法を具体的に示している（授業計画）。
- 小児看護学実習では、対象に合わせた行動計画を立案できるよう情報の整理やアセスメントの方法を指導している（小児看護学実習要項）。

３．子どもやその家族に興味関心を持って寄り添う姿勢を養う

・これまで出会ってきた事例とのエピソードや自分の家族のエピソードを授業内で伝える。また、看護者としてだけではなく、看護を受ける側の子どもや家族の思いを伝え、よりイメージできるように工夫している。

・小児看護学実習では、見学や実践を通し子どもやその家族への倫理的な配慮を考えられるよう指導している。（小児看護学実習要項）。

４．自ら学び続ける姿勢とその方法を養う

・正しい知識や看護技術の重要性を教授し、そのために学び続けることが必要であることを繰り返し伝える。演習や実習を通し、学修の必要性に気付けるよう振り返りを用いて働きかけている。

・主体的に学ぶ姿勢を身に着けるために、GW を用いて意見交換や学修ができる授業展開を意識している。学生の意見を引き出し、その発言からも知識を発展させるように工夫している。

・データの読み取り方や重要な視点がわかるように、必要個所を強調しながら伝える。

【成果・評価】

・授業改善アンケートで回答した94%の学生が科目の達成目標を達成できたと回答している（授業改善アンケート）。

・授業改善アンケートで回答した 100%学生が新たな興味や問題意識を持つことができたと回答してる（授業改善アンケート）。

・授業改善アンケートの改善率が 61.3%と低率だった（授業改善アンケート）。

・小児看護学実習において、履修したすべての学生が実習目標を達成することができた。また、学生の振り返りの記載内容で、子どもの成長発達や健康障害をもつ子どもへの看護について理解が深まったという内容を全員の学生が記載することができていた（小児看護学実習記録）。

【目標】

学生が子どもやその看護に興味関心をもち、学生同士が知識を深め合える授業ができる。

・課題学習では、より深い発表ができるよう目的や取り組み内容を明確にし、活発な GW ができる授業をつくる（授業計画、授業改善アンケート）。(2025)

・授業改善アンケートで、全員が科目の達成目標を達成について「そう思う」「非常にそう思う」と回答する。(2025)